

レースっていいよね
第21回「魂の音楽 part 2」の巻

「魂の音楽」このタイトルで私の周囲で少しばかりのささやかな反響があった。特に、ウチのフォーミュラチームメカニック、W邊氏からは大変熱いメッセージを頂いた。W邊氏いわく、洋楽より邦楽に感じ入るといふ。以下、抜粋する。

言葉(詩)のニュアンスや、その裏にひそんでる物に感銘を受けるんで、日本語以外は、バツ！。でも、何聞いた？。メディアに取り上げられてる物だったら、そのとうり。全部とは言わないけど、直接的な詩にキレイな覚えやすくノリやすいメロディ、これでしょ普段耳にしてるのは。難しく、深い物は、駄目なんだよね。理解されないから。……(中略)だから、ピアノやオーケストラは、凄い！音だけで、あの表現力。

そう、そうなんです。全くもってその通り！ただし、音楽の楽しみ方が少し私とは異なるようです。音楽を聴く時、私はまずメロディラインを大切にします。次にそのアーティストの個性(声質、音の厚みなど)を重視します。勿論、歌詞も大変重要なファクターなのですが、いくら良い歌詞であってもメロディーラインが自分に合わなければその楽曲は私の脳には残らないのです。

しかしながら、今のところ自分の気に入ったメロディーラインの音楽に付随する歌詞においては、ハズレが無いのは面白い現象ではある。ちなみに、メロディーをまず大切にするというのは世界共通のようで、例えばアメリカで坂本九の「上をむいて歩こう」がヒットしたのもこれが理由のような気がします。

ところで、このままでは邦楽否定論者のレッテルをペタリ貼られてしまいそうなので、一応、過去に私が感銘を受けてCDを買った、数少ない邦楽アーティストは次の2人。

- ・ BORO
- ・ 布袋寅泰

この他、CDは買わずとも好きな歌というのは多くあります。山口百恵「いい日旅立ち」、陣内大蔵「僕は風、君は空」(カラオケの十八番)、北島三郎「炎の男」、小谷美紗子「嘆きの雪」など。フライングキッズも結構好きです。最近では、サザンの「TSUNAMI」、TVの影響度外視でこれはホント、いい歌だと思います。

ともあれ、私が邦楽についてよく感じるのは、詩が複雑であること。洋楽の場合、まあ大概英語な訳ですが、とにかく歌詞がシンプル。同じセンテンスを繰り返しているだけの歌も少なくない。確かに英語の場合、一つの単語に含まれる意味合いが一つだけではないので、シンプルな言い回しで深い表現が出来得るといふ点と、単語そのものがメロディーにのり易く、音楽として十分事足りてしまうという効果はあるかもしれません。

いずれにしろ洋邦問わず、どんな聞き方をしようと楽しみ方は千差万別。正しい聞き方なんて無いし、ある意味、人と自分が違うのは当然のこと。音楽は文字通り、「音を楽しむ」もの、それが音質の悪いプレーヤーからの音であっても、ミュージックホールでのライブであっても、とにかく「良い物は良い」んです。そんなことを思いました。

またしてもレース話でなくなってしまった。……。